基本情報

【氏　名】高江　直哉
【年　齢】34歳
(R7.3.31時点)

・地域おこし協力隊活動期間
令和3年7月～令和6年3月

・集落支援員活動期間
令和6年4月～令和7年3月

集落支援員になったきっかけ

地域おこし協力隊として3年間活動し、町内に今まで通りの地域運営が難しくなりつつある集落をいくつか目にしてきました。高齢化や人手不足、耕作放棄地とそれに伴い増える鳥獣被害など、農村運営の課題に対し、3年間地域おこし協力隊として地域の方々と関わってきた経験を活かして何かできないかと思い、集落支援員に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

集落支援員としての活動を通じて、能勢町の現状や課題について考えることができました。

私は能勢町の特産品である栗の生産量が減少していることに特に危機感を感じています。

そのような中、私が地域を訪問し、制度説明を行うことで栗園や農地所有者から「銀寄バンク制度（能勢町が取り組む栗園・栗林の担い手マッチング制度 ）」を利用したいとのお申し出を複数いただき、活動の効果を感じました。

今後は、私も運営メンバーの一人である「里山技塾」の活動を通じて、銀寄バンク制度の借り手となる栗栽培の担い手育成に取り組み、能勢栗を次世代に繋げていきたいと思います。

活動内容

●聞き取り調査及び集落点検

能勢町の特産品である栗を切り口に集落の現状や困りごとを調査しました。

調査方法としては、令和5年度に能勢町観光物産センターへ栗出荷を行っていた84世帯から聞き取り調査にご協力を得ることができました。

住居や農林業について後継者がいる世帯の割合や地域コミュニティが維持されているか、困りごとがあった場合に相談する相手がいるかなどを聞き取り、結果や私の考察を取りまとめて町に報告しました。

●「銀寄バンク制度」の周知及び利用促進活動

能勢町が取り組む栗園・栗林の担い手マッチング制度である「銀寄バンク制度」。

この制度の利用者を増やし、栗林を次世代につなげるために、制度の周知活動やチラシ作成などを行いました。

その結果、栗園や農地の後継者がいない世帯のなかから制度を利用したいというお申し出を複数いただき、一定の効果が得られました。

●聞き取り調査結果の報告・意見交換会の実施

聞き取り調査の結果や考察をもとに、資料を作成し役場職員を交え、能勢町観光物産センターの出荷者団体の方々を対象に報告・意見交換会を実施しました。

1年間の活動内容や、栗栽培における先進地域での取り組みを報告し、地域の状況や能勢栗の振興に向けて様々な意見をいただきました。

活動を通じて感じたこと

お話を伺う中で、能勢町では困ったこと等があった場合にほとんどの方が相談相手は「いる」と答えられており地域コミュニティが保たれていると思いました。

町の施策については、私が地域を訪問し説明することで利用意向を持たれている方が一定数おられることが分かり、今後は職員等が地域へ出向くアウトリーチ型の情報発信が求められていると感じました。